

第 15 回 大阪府河川周辺地域の環境保全等審議会 議事要旨

開催日時	令和 2 年 3 月 11 日（水） 13:30～15:30
開催場所	大阪府安威川ダム建設事務所 5階 大会議室
出席者	池委員、上田委員、岡田委員、竹林委員、森下委員、○養父委員、和田委員、渡部委員 計 8 名（欠席：鶴田委員、布野委員） （○：会長、敬称略、五十音順）
概要：	<p>第 10 回環境改善放流検討部会で審議した結果（「環境改善放流計画（土砂還元計画）」）について報告した。</p> <p>また、前回審議会及び第 10 回環境改善放流検討部会での審議を踏まえ修正した「試験湛水・ダム供用後における環境調査計画」の中間報告を行い、「令和元年度調査報告と取組み」及び「工事期間中の環境保全方策の評価結果（令和元年度）」について報告を行った。</p> <p>【資料 1】環境保全等審議会スケジュールおよび審議概要について ○資料 1 についての委員の主な発言は以下のとおり。 特になし</p> <p>【資料 2】環境改善放流計画（土砂還元計画）について（中間報告）について ○資料 2 についての委員の主な発言は以下のとおり。</p> <p>竹林委員</p> <ul style="list-style-type: none">・上流から土砂を流下させ供給する場合、供給された土砂の大部分は下流へ流下するため、河床低下や減少した砂礫分と同じ量の置き土をしても河床低下や減少した砂礫分が補えるわけではない。・1 箇所からの土砂還元では、スペースの観点から供給量が不足する可能性があるため、さらに下流から土砂還元を実施することも念頭に置いてほしい。 <p>養父会長</p> <ul style="list-style-type: none">・置き土によって供給した土砂が洪水時に流下阻害とならないように留意する必要がある。 <p>渡部委員</p> <ul style="list-style-type: none">・通常の河川管理とはどのようなものを指すのか。河床低下を起こしている部分に土砂を供給するのは、土砂還元でなく通常の工事ではないか。

開催日時	令和2年3月11日(水) 13:30~15:30
開催場所	大阪府安威川ダム建設事務所 5階 大会議室
出席者	池委員、上田委員、岡田委員、竹林委員、森下委員、○養父委員、和田委員、渡部委員 計8名(欠席:鶴田委員、布野委員) (○:会長、敬称略、五十音順)

【資料3】試験湛水・ダム供用後における環境調査計画について(中間報告)について

○資料3についての委員の主な発言は以下のとおり。

森下委員

- ・試験湛水中のダム下流河川の生物調査に関し、魚類、底生動物、付着藻類の調査を試験湛水中は実施しないこととなっている。試験湛水中はダム下流の流量が減少することにより、生物への影響が懸念されるため、調査データを取得しておいた方が良い。

上田委員

- ・電撃捕獲器による魚類相の調査は非常に効果がある一方、生息する魚類へストレスを与える可能性もあると言われている。個体数の正確な把握には必要だが、供用後も含めて毎年行うのはやはりストレスが心配。回数や方法などしっかり協議して実施すること。

養父会長

- ・他ダムでは常時満水位より標高が低い部分に外来の植物が侵入し繁茂している事例がある。調査が必要ではないか。
- ・常時満水位からサーチャージ水位の間に堰があるため、試験湛水時に魚類が逃げられなくなる可能性がある。

【資料4】令和元年度調査報告と取組みについて

○資料4についての委員の主な発言は以下のとおり。

上田委員

- ・冬季に左岸ビオトープを調査したところ、水位がかなり低下している状態であったため、水位が維持できるようにすることが必要。

開催日時	令和2年3月11日(水) 13:30~15:30
開催場所	大阪府安威川ダム建設事務所 5階 大会議室
出席者	池委員、上田委員、岡田委員、竹林委員、森下委員、○養父委員、和田委員、渡部委員 計8名(欠席:鶴田委員、布野委員) (○:会長、敬称略、五十音順)

【資料5】工事期間中の環境保全方策の評価結果について(令和元年度)

○資料5についての委員の主な発言は以下のとおり。

竹林委員

- ・大岩川の石の配置に際し河床へ石を固定すると、植物が侵入、繁茂することにより、河床材料の交換を阻害するため、固定化しないほうが良い。

池委員

- ・複数月にわたりSSが高濃度となった原因は、今後も含めて明らかにしておくことが重要である。

森下委員

- ・設定した評価指標に対応する調査結果が示されていない項目がある。例えば、大岩川では評価結果からは、石積みを実施するアクションには結びつかない(PDCAとなっていない)。
- ・種数だけでなく構成種の指標性も考慮すべきである。

和田委員

- ・ビオトープの哺乳類調査では、シカなどの大型哺乳類を対象としているようであるが、カエル類の保全の観点からはむしろアライグマのほうが問題である。

【傍聴者からの意見】

特になし